

みみタロウ

日本語版 ☆ 112号 2015年6月

しがけんこくさいきょううし
滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
おうみ
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F
Tel/Fax: 077-523-5646
E-mail: mimitaro@s-i-a.or.jp
URL: http://www.s-i-a.or.jp
f: https://www.facebook.com/siabiwako

たの え こ ら い ふ 楽しくエコライフ！

こんかい 今回みみタロウは、非営利団体 循環型社会創造研究所えこら(<http://ekora.jp/>)の代表をされている
ふじたあにこー 藤田アニコーさん(栗東市)にお会いし、環境活動をめぐる想いについてお訊きました。



はんがりー こころ
ハンガリーで子どもの頃から習っていた空手を通して日本文化に興味を持ち、大学時代に1年間日本に留学。そして大学卒業後、再来日しました。人生の転機になったのが、NPOネットワーク地球村の話を聞き、環境に関する考え方方に感銘を受けたこと。環境は個人の力にはあまりにも大きな問題と思っていたのが、自分がやらないと変わらない、と考えるようになりました。そして環境に関わる仕事をしたいと滋賀県の廃棄物処理会社に就職。2010年、その社長さんから「何かおもしろいことをしよう」と言ってもらったのをきっかけに「えこら」が始まりました。えこらは市民や団体、企業と協働しながら持続可能な社会の創造を目的とする非営利団体。主な活動は、資源ゴミを回収し、リサイクルで得た収益の一部を琵琶湖の環境保全に寄附することです。例えばアルミ缶をえこら協賛のリサイクル会社に出すと、ゴミはリサイクルされ、リサイクル会社にはPRになり、人々の環境意識は高まるという三方良しの仕組み。その他、資源物を利用したキヤンドルやリース作りのワークショップ、ネイチャーゲームなど楽しい活動も実施しています。

わたし ほんぶんか だいす いま べんきょううちゅう
私は日本文化が大好きで、今も勉強中のですが、日本文化は環境問題を考える上で、一つの鍵となるものだと思っています。日本文化の思想には、武道、茶道などの「道」と、目に見えないものを感じる「気」という観念があります。「道」は道、つまり結果に行き着くための道筋を大切にする文化のこと。例えば、西洋でお茶を飲むというと、単にお茶を飲むだけですが、茶道では、周りの人と挨拶を交わし、道具や生け花を愛でてからお茶をいただく等、お茶を飲むことに一連の作法があり、その一つ一つの仕草に意味があります。こうした仕草には、人や物との気の流れを生む力があり、人の心や体に良い作用をもたらします。このような、心や体、そして周りとの調和を大切にする考え方方は、経済優先で環境や人への配慮を欠くことの多い現代社会にはとて

じゅうよう にほんじん さいにんしき
も重要で、日本人にも再認識してほしいし、世界にもはっしん 発信していくべきものだと考えています。えこらの活動理念もここに根ざしており、今、滋賀の昔の暮らしに触れるエコツアーを企画中です。

げんだい にほん ゆた くに がいこく
そして現代の日本はとても豊かな国ですね。外国から来られたら特に感じだと思いますが、物はきれいに包装され、新しい物で溢れ、トイレに座れば暖かい快適な生活。でもそれは反面、ゴミを沢山出し、エネルギーを消費し、環境に負荷をかける生活です。このため、えこらは、身近なものをリユースしたり、マイ箸を使ったり、エコクッキングを実施したりと、ちょっとした工夫で無理なくできる日本に合ったエコな暮らし方を提案しています。いろんな賛同者とつながって、環境コミュニティを作ることが私の夢。関心のある方は是非つながりましょう！

わたし ほん かつどう
私はまたま日本にいるのでここで活動していますが、私が外国人だからこそ日本社会に言えること、聞いてもらえることは沢山あると思っています。でももし社長が「一緒にやろう」と声をかけてくれたあの時に気のない返事をしていたら、えこらは生まれていなかつたでしょう。きっかけをもらい、それを活かしてどんどん出かけて人と出会って自分の考えを伝えたから、人々が賛同してくれて活動することができました。また自分の文化を押しつけるのではなく、日本文化を守りたくて活動しているから、多くの日本人が賛同してくれたのだと思います。私が皆さんにアドバイスできるとしたら、日本を自分から受け入れ、自分のものに作っていくこと。そして自分から心を開くこと。そうすれば必ず相手もあなたを受け入れてくれますよ。

ひとなん りゆう やくわり ほん
どの人も何らかの理由や役割があつて日本にいるのだと思います。それが仕事の人もいれば、文化紹介の人もいる、あるいは存在 자체が意味を持っている人もいるでしょう。皆それぞれがその役割を楽しく果たしていくれば幸せな多文化共生社会になることでしょうね！